

- 望田幸男「ドイツにおける戦争責任と「人間の尊厳」」
『部落』 595号 (1995年特別号)
- 大竹秀樹「国際人権をめぐる」『月刊 解放の道』 139号 (1995年8月)
- 奥山峰夫「人種差別撤廃条約の批准と問題点」
『月刊 解放の道』 139号 (1995年8月)
- 山下 潔「いま、なぜ国際人権規約か—選択議定書批准にむけて」
『月刊 解放の道』 139号 (1995年8月)
- 田畑茂二郎「国際人権法研究雑記(1)」『グローブ』 4号 (1996年冬)
- 田畑茂二郎「国際人権法研究雑記(2)」『グローブ』 5号 (1996年春)
- 村上正直「人種差別撤廃条約への日本の加入」
『グローブ』 5号 (1996年春)
- 竹本正幸「国際的人権保障体制の研究」
『世界人権問題研究センター研究紀要』 1号 (1996年3月)
- 反差別国際運動日本委員会編『現代世界と人権7 国際社会における共生と寛容を
求めて』 解放出版社 (1995年3月)
- 反差別国際運動日本委員会編『現代世界と人権8 世界人権会議と人権の進展』
解放出版社 (1995年8月)
- 反差別国際運動日本委員会編『現代世界と人権9 人種差別撤廃条約の批准と国内
実施』 解放出版社 (1995年11月)
- 反差別国際運動日本委員会編『現代世界と人権10 国際人権条約の締結と日本の人
権』 解放出版社 (1996年5月)
- 『国連の人権活動と日本—人権諸条約の意義と課題』
財団法人アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)編
(1996年3月)
- カルメル・ブディアルジョリム・スイ・リオン著/小野寺和彦訳
『インドネシアの先住民族と人権問題—西パプアにみる民族絶滅政策』
明石書店 (1995年2月)
- もりき和美『国籍のありか—ボーダーレス時代の人権とは』
明石書店 (1995年8月)
- 世界人権会議 NGO 連絡会編・江橋崇監修『NGO が創る世界の人権—ウィーン宣言
の使い方』 明石書店 (1996年1月)
- 萩原重夫『人権法入門—国境をなくす「人権」』 明石書店 (1996年3月)
- マイノリティ・ライツ・グループ編・マイノリティ事典翻訳委員会訳『世界のマイ
ノリティ事典』 明石書店 (1996年3月)

11 法律

- 北村泰三「国際人権法と代用監獄問題に関する一考察」
『世界人権問題研究センター研究紀要』 1号 (1996年3月)

- 長谷川正安「これからの部落解放運動と憲法」
『月刊 解放の道』 136号 (1995年5月)
- 山岡孝幸「広島県個人情報保護条例制定の意義」
『部落解放ひろしま』 21号 (1995年6月)
- 日本弁護士連合会編『日弁連・弁護士会人権救済申立事例集—人権侵害の根絶をめ
ざして』 明石書店 (1995年10月)
- 日本弁護士連合会編『代用監獄の廃止と刑事司法改革への提言—国際法曹協会
(IBA)の調査レポートと国際 セミナーから』
明石書店 (1995年10月)
- 海渡雄一他『監獄と人権—制度化された隔離と暴力その改革をめざして』
明石書店 (1995年12月)

- 碓井敏正「人権の内容と権利主体の発展」 『部落』 591号 (1995年5月)
 碓井敏正「人権小国、日本の現実」 『部落』 592号 (1995年6月)
 山下綾子「いじめと人権—子どもの権利条約の視点より」
 『部落』 592号 (1995年6月)
 池上 惇「現代の人権を考える」 『部落』 595号 (1995年特別号)
 小林 武「人権の成立と展開」 『部落』 595号 (1995年特別号)
 古川利通「人権とはなにか—その発展のあゆみを通して考える」
 『部落』 596号 (1995年9月)
 高山利夫「職場における人権確立の課題」 『部落』 598号 (1995年11月)
 碓井敏正「いじめを通して、人権と新しい人間関係を考える」
 『部落』 602号 (1996年2月)
 三木谷英男「関西電力の人権裁判を闘って」 『部落』 603号 (1996年3月)
 伊豆丸鼎「「いじめ」考—現状ではいじめはなくなる」
 『部落解放史・ふくおか』 77号 (1995年3月)
 小林 武「人権とは何か」 『月刊 解放の道』 137号 (1995年6月)
 村下 博「部落問題と人権」 『月刊 解放の道』 138号 (1995年7月)
 池田 寛「あらためて「人権の思想」について」
 『現代教育科学』 472号 (1996年3月)
 仲尾 宏「定住外国人の人権問題の研究」
 『世界人権問題研究センター研究紀要』 1号 (1996年3月)
 部落解放研究所編、反差別国際運動日本委員会『人ある限り人権を。いま、人権は
 …世界の差別、日本の差別 第2版』 解放出版社 (1996年4月)
 松田利彦『双書 在日韓国・朝鮮人の法律問題5 戦前期の在日朝鮮人と参政権』
 明石書店 (1995年4月)
 児玉勇二『子どもの人権ルネッサンス』 明石書店 (1995年8月)
 関東弁護士会連合会編『障害者の人権 障害者の裁判を受ける権利／成年後見制度
 の研究』 明石書店 (1995年10月)
 金 敬 得『在日コリアンのアイデンティティと法的地位』
 明石書店 (1995年10月)
 磯村英一・宮崎繁樹編『現代の人権と同和問題』 明石書店 (1996年2月)

9 反差別

- バグワン・ダス「インドの「不可触民」差別」
 『部落解放』 395号 (1995年9月)
 阿南重幸「「外国人」と「国籍条項」」
 『ながさき部落解放研究』 30号 (1995年3月)
 池田士郎「「らい予防法」を越えて—病氣と差別を考える」
 『こべる』 36号 (1996年3月)

- 仲尾 宏「定住外国人の人権問題の研究」
 『世界人権問題研究センター研究紀要』 1号 (1996年3月)
 部落解放研究所編『日本における差別と人権・第三版』
 解放出版社 (1995年4月)
 和田武広『はじけた家族—手記・結婚差別』 解放出版社 (1995年8月)
 反差別国際運動日本委員会編『人種差別撤廃条約と反差別の闘い』
 解放出版社 (1995年9月)

10 国際人権

- 友永健三「人種差別撤廃条約の年内早期批准を求めて」
 『部落解放』 397号 (1995年11月)
 金 東 勲「アジアの人権と日本」 『部落解放』 399号 (1996年臨時号)
 岡本雅享「どう実施する？人種差別撤廃条約」
 『部落解放』 401号 (1996年2月)
 金 東 勲「立法を含む包括的な差別撤廃措置を一「条約」加入の意義と課題」
 『部落解放』 401号 (1996年2月)
 谷元昭信「人種差別撤廃条約締結の経緯について」
 『部落解放』 401号 (1996年2月)
 宮崎繁樹「図書紹介／マイノリティ研究会編『各国の人権擁護制度』」
 『部落解放研究』 107号 (1995年12月)
 上村英明「先住民族の10年の意義と課題」
 『部落解放研究』 107号 (1995年12月)
 村上正直「人種主義及び人種差別と闘う行動のための第3次「10年」の意義と課題」
 『部落解放研究』 107号 (1995年12月)
 西川 潤「世界の貧困—国連貧困根絶10年の課題」
 『部落解放研究』 108号 (1996年2月)
 トーマス・マッカーシー「冷戦後の世界と人権状況—国連人権高等弁務官の任務と
 課題」 『ヒューマンライツ』 83号 (1995年2月)
 小松和彦「習慣と迷信の世界と人権—「迷信」と「異人」の発見から」
 『ヒューマンライツ』 88号 (1995年7月)
 田中敦子「日本人と「人権」—第51会期国連人権委員会に出席して」
 『ヒューマンライツ』 88号 (1995年7月)
 金 東 勲「人種差別撤廃条約の批准に寄せて」
 『ヒューマンライツ』 94号 (1996年1月)
 大竹秀樹「人種差別撤廃条約について(1)」 『部落』 593号 (1995年7月)
 大竹秀樹「人種差別撤廃条約について(完)」 『部落』 594号 (1995年8月)
 加藤恒彦「アメリカにおける人権問題」 『部落』 595号 (1995年特別号)
 中村福治「韓国の人権問題」 『部落』 595号 (1995年特別号)

- 動く、世界が変わる』 明石書店 (1995年9月)
 ABC ネパール編/矢野好子訳『ネパールの少女買春—女性 NGO からのレポート』
 明石書店 (1996年7月)
 宮地光子『平等への女たちの挑戦—均等法時代と女性の働く権利』
 明石書店 (1996年7月)
 清水澄子・北沢洋子『女性がつくる21世紀 私たちの北京「行動綱領」』
 女性政策研究所、ユック舎 (1996年2月)

7 宗教

- 「宗教者の実践と今後の課題」『部落解放』 386号 (1995年臨時号)
 松谷了秀「“魂の解放”の実現を求めて—富山の真宗寺院の一住職として」
 『部落解放』 391号 (1995年7月)
 青木 理「社会が生み出したオウム真理教」
 『部落解放』 393号 (1995年8月)
 木津 譲「差別戒名に懺悔—梅田信隆・曹洞宗管長が長野県で差別戒名墓石を拝む」
 『部落解放』 398号 (1995年12月)
 菱木政晴「宗教の戦争責任」 『部落解放』 399号 (1996年臨時号)
 「宗教者の実践と今後の課題」『部落解放』 402号 (1996年臨時号)
 池田知隆「「理想」なき社会の救い—新宗教はなぜ若者をひきつけるのか」
 『ヒューマンライツ』 87号 (1995年6月)
 ハウラ中田香織「イスラームは女性抑圧の宗教か」
 『ヒューマンライツ』 87号 (1995年6月)
 森 一弘「「宗教」理解へのよびかけとカルト宗教の特徴」
 『ヒューマンライツ』 90号 (1995年9月)
 島藺 進「新新宗教と現代文明(下)」
 『ヒューマンライツ』 92号 (1995年11月)
 奥本武裕「大和の「部落寺院」の本末関係について」
 『研究紀要』2号、奈良県立同和問題関係史料センター (1995年3月)
 中村久子「差別戒名—発見から今日まで」
 『部落解放史・ふくおか』 79号 (1995年9月)
 長坂公一「明慶寺過去帳の法名「釈義釜」を巡って」
 『部落解放ひろしま』 21号 (1995年6月)
 季平博昭「解放運動から問われる宗教者の課題」
 『部落解放ひろしま』 22号 (1995年10月)
 久米忠臣「盲僧と杵築藩」 『おおいた部落解放史』 16号 (1996年3月)
 佐々木良憲「お寺は心の拠り所」『ひょうご部落解放』 67号 (1996年1月)
 鈴木祥蔵「親鸞の思想をどううけつぐのか 2」
 『解放教育』 337号 (1996年3月)

- 鈴木祥蔵「親鸞の思想をどううけつぐのか 3」
 『解放教育』 338号 (1996年4月)
 鈴木祥蔵「親鸞の思想をどううけつぐのか 4」
 『解放教育』 339号 (1996年5月)
 鈴木祥蔵「親鸞の思想をどううけつぐのか 5」
 『解放教育』 340号 (1996年6月)
 中尾良信「差別戒名の確認と対処—栃木県下差別戒名調査を踏まえて」
 『人権教育研究』 3号、花園大学人権教育研究室 (1995年3月)
 「宗務審議会「女性の宗門活動に関する委員会」答申」
 『真宗』 1106号 (1996年5月)
 村越末男『部落解放運動と宗教—村越末男論文集』 解放出版社 (1995年10月)
 河田光夫『親鸞の思想形成』 明石書店 (1995年11月)
 池田士郎『中山みきと被差別民衆—天理教教祖の歩んだ道』
 明石書店 (1996年2月)
 源 淳子『仏教と性 エロスへの畏怖と差別』 三一書房 (1996年1月)

8 人権

- 藤澤敏雄「人間の尊厳を取り戻すために—精神障害をどう理解し、差別を超えるか」
 『部落解放』 396号 (1995年10月)
 今田克司「O. J. シンプソン裁判の評決と人種の壁」
 『部落解放』 400号 (1996年1月)
 高野眞澄「実効ある人権擁護体制の整備を」
 『部落解放』 406号 (1996年6月)
 高野眞澄「新たな人権擁護制度を求めて」
 『部落解放研究』 107号 (1995年12月)
 川村暁雄「人権と開発援助」 『ヒューマンライツ』 88号 (1995年7月)
 アンソニー・カーン「アメリカにおけるアフーマティブ・アクション論争—焦点
 はなにか?」 『ヒューマンライツ』 93号 (1995年12月)
 木村達也「プライバシーと人権」 『ヒューマンライツ』 93号 (1995年12月)
 ロナルド・チズム、マイケル・ワシントン「人種差別をなくす(上)」
 『ヒューマンライツ』 96号 (1996年3月)
 ロナルド・チズム、マイケル・ワシントン「人種差別をなくす(下)」
 『ヒューマンライツ』 97号 (1996年4月)
 友永健三「人種差別撤廃条約と日本の人権保障」
 『ヒューマンライツ』 98号 (1996年5月)
 村下 博「外国人労働者の排除とわれわれの課題」
 『部落』 588号 (1995年2月)
 村下 博「外国人労働者の人権を守るために」『部落』 589号 (1995年3月)

- 大野町子「北京女性会議に向けて」 『部落解放』 399号 (1996年臨時号)
 林 陽子「北京女性会議「行動綱領」の実現へむけて」
 『部落解放』 400号 (1996年1月)
 中田理恵子「第4回世界女性会議・95'NGO フォーラム—部落解放同盟中央本部女性
 対策部参加ツアーの一員として」
 『部落解放研究』 108号 (1996年2月)
 小寺初世子「第4回世界女性会議(FWCW)での人権をめぐる論点」
 『部落解放研究』 108号 (1996年2月)
 藤岡美恵子「第4回世界女性会議報告—行動綱領の焦点とNGOにとっての課題」
 『部落解放研究』 108号 (1996年2月)
 大脇雅子/大野町子/養父知美/信岡登紫子/冨田幸子/井上輝子/林陽子「北京
 女性会議への道」 『ヒューマンライツ』 86号 (1995年5月)
 松井やより「女性たち声をあげよう—アジアの女性の人権と北京女性会議」
 『ヒューマンライツ』 86号 (1995年5月)
 石野伸子「史上最大、最強の女性会議—北京会議記者日記」
 『ヒューマンライツ』 91号 (1995年10月)
 大野町子「ネットワークの重要性を痛感—NGO フォーラム(北京)に参加して」
 『ヒューマンライツ』 91号 (1995年10月)
 武者小路公秀「女性たちの心意気に感動」
 『ヒューマンライツ』 91号 (1995年10月)
 山崎鈴子「ナイロビから北京へ」 『ヒューマンライツ』 91号 (1995年10月)
 伊藤孝司「日本軍の性奴隷にされた女性たち(1)」
 『ヒューマンライツ』 92号 (1995年11月)
 伊藤孝司「日本軍の性奴隷にされた女性たち(2)」
 『ヒューマンライツ』 93号 (1995年12月)
 千種・キムラ・スティーブン「二重の差別とのたたかい—マオリ女性の現状と取り
 くみ」 『ヒューマンライツ』 96号 (1996年3月)
 坂本福子「女性と人権—働く女性の平等への要求」
 『部落』 589号 (1995年3月)
 村松いづみ「これからの結婚・離婚—今、家族法が変わる」
 『部落』 605号 (1996年5月)
 岸田章子「世界女性会議に思うこと」
 『ひょうご部落解放』 65号 (1995年9月)
 北田美智子「役所の臨職差別 北京女性会議で訴える」
 『ひょうご部落解放』 65号 (1995年9月)
 小林致広「中南米先住民女性と北京女性会議」
 『ひょうご部落解放』 65号 (1995年9月)
 藤岡美恵子「アジア女性の人身売買撤廃をめざして」

- 『ひょうご部落解放』 65号 (1995年9月)
 正井礼子「第4回世界女性会議に参加して」
 『ひょうご部落解放』 65号 (1995年9月)
 森木和美「2000年にむけて歩いてきた国連と女性たち」
 『ひょうご部落解放』 65号 (1995年9月)
 もりき和美「闘う女性たちが見えますか」
 『ひょうご部落解放』 65号 (1995年9月)
 木村京子「ペンに裁かれる女たち—事件報道の中の女性像—1994年1月から11月ま
 で—に取り組んで」
 『部落解放史・ふくおか』 78号 (1995年6月)
 門 更月「『男女雇用機会均等法』以後の女性の労働が提起する目指すべき社会」
 『ながさき部落解放研究』 30号 (1995年3月)
 小寺初世子「第四回世界女性会議(FWCW=北京会議)管見記—NGO フォーラム
 での報告を中心に」
 『世界人権問題研究センター研究紀要』 1号 (1996年3月)
 福田雅子「女性の人権問題の研究」
 『世界人権問題研究センター研究紀要』 1号 (1996年3月)
 米田眞澄「女子差別撤廃条約における同一価値労働同一報酬原則に関する一考察—
 「労働の質の評価に対する取扱の平等についての権利」をめぐる」
 『世界人権問題研究センター研究紀要』 1号 (1996年3月)
 柴山恵美子「均等法10年—女性労働者の現状と課題」
 『労働運動研究』 労働運動研究所、318号 (1996年4月)
 柴山恵美子「均等法見直しと「新・日本の経営」をめぐる」
 『労働運動研究』 319号 (1996年5月)
 鈴木みどり「依然根強い性別役割意識—ニュース番組の分析からみる放送メディア
 とジェンダー」 『新聞研究』 (1996年2月)
 森 実「男性読者のための女性問題学習の新しいキーワード」
 『社会教育』 (1995年12月)
 宮前千雅子「最近の出産事情」 『季刊・リパティ』 10号 (1995年6月)
 大野町子『人権ブックレット47 女性問題入門』 解放出版社 (1995年2月)
 国際法律家委員会/(株)自由人権協会、日本の戦争責任資料センター訳
 『国際法からみた「従軍慰安婦」問題』 明石書店 (1995年3月)
 下館事件タイ三女性を支える会編・福島由利子訳『買春社会日本へ、タイ人女性か
 らの手紙』 明石書店 (1995年5月)
 アムネスティ・インターナショナル著・アムネスティ・インターナショナル日本支
 部女性と人権チーム訳『世界の女性と人権—紛争と改革のなかで』
 明石書店 (1995年7月)
 アムネスティ・インターナショナル日本支部編『アムネスティ人権報告④ 女性が

- 丹羽俊夫「人権、差別語、不快語に配慮した広報表現(下)」
『広報』 528号 (1996年5月)
- 山田健太「人種差別撤廃条約批准とメディアの役割」
『放送批評』 320号、放送批評懇談会 (1996年3月)
- 用語問題取材班「マスコミ界「差別用語」最前線<16>『全共闘白書』回収事件から
「シナソバ」「シナチク」まで」
『放送レポート』 133号、メディア総合研究所 (1995年3月)
- 用語問題取材班「マスコミ界「差別用語」最前線<17>「竜馬」糾弾から「差別語実
験テスト」モデル回答まで」
『放送レポート』 140号 (1996年5月)
- 「特集 メディアと人権」
『「ひと」の権利』 3号、関西大学人権問題委員会 (1996年3月)
- 人権と報道・連絡会『報道の人権侵害と闘う本』 三一書房 (1995年5月)
- 田宮 武『マスコミと差別表現論』 明石書店 (1995年2月)
- #### 4 狭山
- 青木 孝「筆跡が示す石川さんの無実」『部落解放』 388号 (1995年4月)
- 組坂繁之「仮出獄から再審開始へ」『部落解放』 388号 (1995年4月)
- 中山武敏「自白の形成過程の再検討をふまえて」
『部落解放』 388号 (1995年4月)
- 山上益朗「確定判決の証拠構造は崩壊した」
『部落解放』 388号 (1995年4月)
- 中山武敏・浜田寿美男「狭山再審闘争の課題と司法反動との闘い」
『部落解放』 402号 (1996年臨時号)
- 小林敏昭「野田事件、その有罪確定の意味と再審の闘い」
『明日を拓く』 (1995年9月)
- 川崎正明「石川一雄さんの完全無罪を勝ちとるために一狭山第二次再審の闘い」
『部落解放ひろしま』 22号 (1995年10月)
- 浜田寿美男「再審請求の手前で一野田事件の現在」
『人権教育研究』 3号、花園大学人権教育研究室 (1995年3月)
- 佐々木光明「刑事裁判と再審一誰のための再審か」
『法学セミナー』 (1996年4月)
- 川崎英明「再審で問われるもの」『法学セミナー』 (1996年4月)
- 同和推進本部「「狭山事件」の再審開始を願って」
『真宗』 1095号 (1995年6月)
- 佐藤 一「狭山事件・別件取調室の30日間一石川さんはなぜ自白したのか」
解放出版社 (1995年11月)

5 文化創造

- 姜 博 久「差別表現にどう向きあうか」『部落解放』 385号 (1995年2月)
- 土方 鉄「差別と表現」『部落解放』 385号 (1995年2月)
- 「文化創造にむけた課題」『部落解放』 386号 (1995年臨時号)
- 「文化創造にむけた課題」『部落解放』 402号 (1996年臨時号)
- 乾 武俊「被差別民衆の文化」『ヒューマンライツ』 85号 (1995年4月)
- 乾 武俊「被差別部落の伝承文化を訪ねて6ノ子どもがめぐる「地藏さん」」
『ヒューマンライツ』 86号 (1995年5月)
- 成澤榮壽「表現の自由と部落解放運動—日本ペンクラブのシンポジウムについて」
『部落』 (1995年12月特別号)
- 「同和教育における映画・音楽の功罪」
『月刊スティグマ』 8号 (1995年12月)
- 「被差別者の音楽 (JAZZ) を考える (上)」
『月刊スティグマ』 11号 (1996年3月)
- 「被差別者の音楽 (JAZZ) を考える (下)」
『月刊スティグマ』 12号 (1996年4月)
- 大沢秀介「差別的表現」『法学教室』 178号 (1995年7月)
- 『差別と表現を考える』編集委員会編『シンポジウム 差別と表現を考える』
解放出版社 (1995年7月)
- 川元祥一「差別と表現—画一から差異へ」 三一書房 (1995年9月)
- 塩見鮮一郎「差別語と近代差別の解明」 明石書店 (1995年4月)
- 日本ペンクラブ編「「差別表現」を考える」 光文社 (1995年10月)
- #### 6 女性
- 羽後静子「国連世界女性会議へ向けて東アジアの女性の声を」
『部落解放』 388号 (1995年4月)
- 宋 神 道「わたしは「従軍慰安婦」だった」
『部落解放』 397号 (1995年11月)
- 羽後静子「人身売買撤廃のために」『部落解放』 398号 (1995年12月)
- 計良智子「アイヌ衣装が誇らしかった」『部落解放』 398号 (1995年12月)
- 安積遊歩「障害をもつ女性の方に限界はない」
『部落解放』 398号 (1995年12月)
- 皇甫康子「「慰安婦」問題を訴える」『部落解放』 398号 (1995年12月)
- 松井やより「北京から21世紀へ—第4回国連世界女性会議をどう生かすか」
『部落解放』 398号 (1995年12月)
- 李 栄 汝「世界の闘いに心を響かせ—部落解放同盟中央女性対策部が北京女性会議
NGO フォーラム参加」『部落解放』 398号 (1995年12月)

- 鈴木二郎「『差別』論再考(1)―差別とは何であるか、もう一度考え直してみよう―」
『部落問題―調査と研究―』 120号 (1996年2月)
- 鈴木二郎「『差別』論再考(2)―偏見とは何であるか、もう一度考え直してみよう―」
『部落問題―調査と研究―』 121号 (1996年4月)
- 鈴木二郎「『差別』論再考(3)―脱部落とは何であるか、もう一度考え直してみよう―」
『部落問題―調査と研究―』 122号 (1996年6月)
- 西山正美「津山市の同和啓発の課題」
『部落問題―調査と研究―』 123号 (1996年8月)
- 梅田 修「学校における同和教育」と「啓発」―文部省『同和教育指導資料』(1994・7)をめぐって』
『部落』 588号 (1995年2月)
- 多田敏行「人権啓発についての疑問」 『こべる』 38号 (1996年5月)
- 田中治彦「国際化と社会教育―NGOと開発教育」
『月刊 社会教育』 470号 (1995年4月)
- 木村光夫「差別をなくしていく人権学習」
『月刊 社会教育』 増刊号、国土社 (1995年11月)
- 「啓発活動の課題」の分科会論議は具体的な事業をもとに展開できないか?」
『月刊スティグマ』 6号 (1995年10月)
- 三上祐一「啓発って何だろう―映像メディアを通して考える」
『別冊スティグマ』 8号 (1995年11月)
- 古賀芳夫「校内「同和」教育研修会問題に関する報告と提起」
『月刊スティグマ』 14号 (1996年6月)
- 中村文哉「差別行為と他者理解―現象学的行為理論の見地から」
『人権教育研究』 3号、花園大学人権教育研究室 (1995年3月)
- 森 実「心のケア・人権意識の裾野・人権スキルの充実を」
『現代教育科学』 472号 (1996年3月)
- 森山沾一「生涯学習時代の人権教育」『現代教育科学』 472号 (1996年3月)
- 若林義夫「新しい啓発」 『岡山部落解放研究所報』 145号 (1995年3月)
- 西村道郎「高知県の「啓発」の現状と問題点」
『月刊 解放の道』 133号 (1995年2月)
- 「福岡県における「人権問題」に関する社会啓発のあり方について」
『月刊 解放の道』 133号 (1995年2月)
- 杉之原寿一「『心理的差別』は存在しえない―いま「同和啓発」を批判する」
『ねっとわーく京都』 (1996年3月号)
- 総務庁長官官房地域改善対策室編
『新たな啓発活動の発展に向けて「平成6年度・同和問題に関する指導者養成研修会」記録』 中央法規出版 (1995年3月)
- 総務庁長官官房地域改善対策室編
『新しい啓発活動 人権問題の視点から「平成7年度・同和問題に関する指導者養

- 成研修会」記録』 中央法規出版 (1996年3月)
- 田宮 武「人権意識論」 明石書店 (1995年3月)
- 田中 蔚「感性を問う人権啓発」 明石書店 (1995年7月)
- 山内隆久「偏見解消の心理 対人接触による障害者の理解」
ナカニシヤ出版 (1996年3月)
- 宮崎繁樹「これからの啓発活動及びそれに伴う啓発センターのあり方について」
財地域改善啓発センター (1996年5月)

3 マスコミ

- 浅野健一「匿名報道主義で差別・偏見なくせー精神医療ユーザーと犯罪報道」
『部落解放』 396号 (1995年10月)
- 野田幸雄「マスコミと人権教育」 『部落解放』 405号 (1996年5月)
- 中野恵美子「『テレビと子ども世界会議』に参加して」
『ヒューマンライツ』 90号 (1995年9月)
- 箕面市立萱野中央人権文化センター「市民活動のネットワーク―周辺地域ととも」
『ヒューマンライツ』 91号 (1995年10月)
- 小川 悟「シンティ・ロマに対する差別報道」
『ヒューマンライツ』 95号 (1996年2月)
- 植山光朗「西日本新聞の卑屈な偏向報道を斬る」
『部落』 592号 (1995年6月)
- 内海 誠「地対協総括部会「報告書」報道で問われる一部マスコミの見識」
『月刊 解放の道』 148号 (1996年5月)
- 高木奈保子「差別的表現に関わる二つの事例から(上)」
『こべる』 28号 (1995年7月)
- 高木奈保子「差別的表現に関わる二つの事例から(下)」
『こべる』 29号 (1995年8月)
- 島谷直子「『狭山事件』をつくりあげた新聞報道」
『解放研究』 9号 (1996年3月)
- 溝上 瑛「狭山事件とのかすかな縁」 『グローブ』 3号 (1995年秋)
- 山際永三「犯罪報道と冤罪」 『明日を拓く』 (1995年9月)
- 大平 誠「歩いて見えた大震災の階級性―被差別部落や在日韓国・朝鮮人多住地域に被害集中」・『月刊 マスコミ市民』 317号 (1995年4月)
- 鈴木みどり「テレビと子どもの権利―「テレビと子ども」世界会議を前に」
『月刊 マスコミ市民』 317号 (1995年4月)
- 友永健三「差別問題に積極的取り組みを」
『新聞研究』 523号、日本新聞協会 (1995年2月)
- 丹羽俊夫「人権、差別語、不快語に配慮した広報表現(上)」
『広報』 527号 (1996年4月)

金子則夫「企業内啓発の現状と課題」	『ヒューマンライツ』	97号	(1996年4月)
清水宣行「企業活動と人権」	『ヒューマンライツ』	98号	(1996年5月)
株式会社ヒロテック「企業啓発の実践と課題」	『ヒューマンライツ』	98号	(1996年5月)
石川島播磨重工業株式会社呉事業所「企業啓発の実践と課題」	『部落解放ひろしま』	21号	(1995年6月)
日立中国ソフトウェア株式会社「企業啓発の実践と課題」	『部落解放ひろしま』	22号	(1995年10月)
編集部「明るい職場づくりをめざして—中外製薬株式会社」	『部落解放ひろしま』	24号	(1996年4月)
香野貞人「企業の人権啓発」	『明日を拓く』		(1995年8月)
	解放出版社		(1995年8月)

2 啓発

八尾 勝「差別する心理を考える」	『部落解放』	386号	(1995年臨時号)
加藤敏明「啓発活動の課題」	『部落解放』	399号	(1996年臨時号)
加藤敏明「啓発活動の抜本的な強化を」	『部落解放』	402号	(1996年臨時号)
加藤敏明「部落問題学習の方法論の構築に向けて」	『部落解放研究』	102号	(1995年2月)
小森哲郎「意識調査結果（最終報告）の分析」	『部落解放研究』	104号	(1995年6月)
元木 健「総務庁意識調査（1993年）の結果から」	『部落解放研究』	106号	(1995年10月)
加藤敏明「『国連人権教育の10年』と人権啓発の課題」	『部落解放研究』	108号	(1996年2月)
上杉孝實「周辺地域・地域内啓発と生涯学習」	『部落解放研究』	108号	(1996年2月)
白井俊一「周辺地域・地域内啓発に関する私論（国連人権教育の10年に思うこと）」	『部落解放研究』	108号	(1996年2月)
平野一郎「図書紹介／部落解放研究所編『人権時代の生涯学習・啓発の理論と方法』」	『部落解放研究』	108号	(1996年2月)
加藤敏明「部落問題学習の新たな試み」	『ヒューマンライツ』	85号	(1995年4月)
又川邦義「活動報告／豊中市市民演劇の試み」	『ヒューマンライツ』	85号	(1995年4月)
松本城洲夫「市民演劇と人権啓発」			

元木 健「地域啓発センターの理論的課題」	『ヒューマンライツ』	85号	(1995年4月)
森 実「『国連人権教育の10年』と人権啓発」	『ヒューマンライツ』	85号	(1995年4月)
上杉孝實「『国連人権教育の10年』と社会教育」	『ヒューマンライツ』	88号	(1995年7月)
北口末広「大阪の人権啓発の現状と課題」	『ヒューマンライツ』	90号	(1995年9月)
上杉孝實「周辺地域・地域内啓発の発展のために」	『ヒューマンライツ』	98号	(1996年5月)
松本城洲夫「これからの人権啓発」	『ヒューマンライツ』	98号	(1996年5月)
乗本良一「人権啓発行政をめぐる現状」	『ヒューマンライツ』	98号	(1996年5月)
白井俊一「いきいきと生きるための周辺地域・地域内啓発私論」	『ヒューマンライツ』	98号	(1996年5月)
武本 勝「参画型学習の実際 第1回—“おもしろい”同和研修を創ろう」	『ヒューマンライツ』	99号	(1996年6月)
梅田 修「『啓発』の強調の論理—政府関係機関の動向を中心に」	『部落問題研究』	132号	(1995年3月)
生田周二「偏見と差別意識について—啓発との関わりにおける『差別意識論』批判」	『部落問題研究』	136号	(1996年3月)
奥山峰夫「『同和啓発サミット』で何が鮮明になったか」	『月刊部落問題』	220号	(1995年4月)
杉尾敏明「『同和啓発』の理論問題①—東上氏の所論批判を中心に」	『月刊部落問題』	220号	(1995年4月)
杉尾敏明「『同和啓発』の理論問題②—東上氏の所論批判を中心に」	『月刊部落問題』	225号	(1995年9月)
杉尾敏明「『同和啓発』の理論問題③—東上氏の所論批判を中心に」	『月刊部落問題』	229号	(1996年1月)
瀬川負太郎「同和啓発の制度化・解同相乗りの意見具申」	『月刊部落問題』	237号	(1996年9月)
全国部落解放運動連合会中央委員会「資料 『同和啓発』に関する全解連の見解—国民の内心にふみこむ『人権啓発・教育』の法的措置に反対する」	『月刊部落問題』	237号	(1996年9月)
成澤榮壽「部落問題解決の必要条件—同和・人権啓発にかかわって」	『月刊部落問題』	237号	(1996年9月)

資料

人権・啓発部門関係文献目録

(1995年2月～1996年9月)

以下の目録は、本号特集の一環として、概ね1995年2月から1996年9月の間に発表された著作・論文を対象に、分野別に分類して掲載した。

1 企業

- 愛知同和問題企業連絡会「人材育成活動を中心に」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 大阪同和問題企業連絡会「組織の再構築に向けて始動」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 京都同和問題企業連絡協議会「継続することの大切さ」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 倉吉市同和問題企業連絡会「スローガンから“実行の時代”に」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 埼玉同和教育推進企業連絡会「差別を見抜き、許さない人の育成」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 滋賀同和問題企業連絡会「社内「人権宣言」をめざして」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 東京人権啓発企業連絡会「「内なる国際化」の実現を」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 鳥取市同和問題企業連絡会「鳥取市解放大学の開講」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 同和問題の解決をめざす広島企業連絡会「取り組みに企業間格差」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 兵庫県同和問題推進企業連絡会「地域に密着した活動の推進」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 福岡市企業同和問題推進協議会「「人権・人間の尊重」の企業に」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 和歌山同和問題企業連絡会「反省と熱意を込め「輪とわと和」」
【部落解放】 404号 (1996年4月)
- 天辰哲男「企業啓発と人権教育」 【部落解放】 405号 (1996年5月)
- 下村満子「21世紀型企業と人間尊重」
【ヒューマンライツ】 94号 (1996年1月)
- 香野貞人「薬害と企業」 【ヒューマンライツ】 97号 (1996年4月)
- 清水宣行「製造物責任法と人権問題」